

# 菅平生き物通信

発行者 筑波大学菅平高原実験センター 〒386-2204 長野県上田市菅平高原 1278-294 Tel 0268-74-2002  
Fax 0268-74-2016 ホームページ <http://www.sugadaira.tsukuba.ac.jp/>  
編集 池田 雅子 (ikimono@sugadaira.tsukuba.ac.jp) © 2010 筑波大学菅平高原実験センター

## 大明神宿舎の建築的価値

信州大学工学部建築学科 助教 梅干野 成央

筑波大学菅平高原実験センターの広敷地のなかには、そこでの学問的な営みを支える幾つかの建物がたっています。主には大明神宿舎、宿泊棟、教育研究棟A棟、研究棟B棟が、これにあてはまるでしょう。大明神宿舎は昭和41年（一九六六）に、宿泊棟と教育研究棟A棟は昭和44年（一九六九）に、研究棟B棟は昭和54年（一九七九）にたてられました。このうち、最も古くにたてられた大明神宿舎は、筑波大学菅平高原実験センターの歴史を伝える重要な建物であるといえます。また、宿舎という建物の類型に着目すれば、大明神宿舎の価値はこれにとどまりません。これまで、菅平高原には、合宿や研修目的として、たくさんの人が訪れてきました。これらの人を受け入れてきた建物こそ宿舎であったといえます。すなわち、菅平高原の発展の背景には、菅平高原を訪れる人が一時的に滞在することのできる、宿舎の存在が大きかったといえます。しかしながら、菅平高原を歩いてみますと、こうした歴史を物語る古い宿舎をほとんど確認することができません。その意味で、

センターの歴史はもとより、菅平高原の歴史をも伝える重要な建物であるといえます。

柿渋塗装後の大明神宿舎



では、大明神宿舎の建物のつくりを見てみましょう。

木造平屋建ての構造で、屋根はトタン葺き、外壁は下見板張りです。間取りは片廊下型で、廊下の南側に宿泊室が四室、廊下の北側にトイレ、廊下の突き当たりには食堂と厨房と風呂が配されています。出窓の下部には収納スペースが設けられていて、宿舎としての合理性に富んでいます。こうした大明

に加え大部分が出窓で構成された立ち姿にも見られます。出窓は、とても透明感があり周囲の自然を映し出し、また、その立ち姿は、周囲の自然と一体となって、透明な景観を形づくっています。



図1 大明神宿舎平面図 (S=1/100)



こうした価値を持つ大明神宿舎は、筑波大学菅平高原実験センター、さらには、菅平高原を代表する文化財として位置づけることが出来るでしょう。←

## 冬の大明神滝ツアー 募集

今年2月に開催し

↓ 現在の文化財保護制度のなかには、文化財の登録制度（登録有形文化財）があります。この制度はたてられてから50年以上が経過して一定の評価を得た建物が、優遇措置を受けながら、緩やかな規制のもとに利活用をはかることのできる制度で、大明神宿舎にはうってつけです。

「好評頂きました  
「大明神の滝ツアー」  
を来年も企画いたしました。  
ご参加お待ち  
致しております。



**日時** 平成23年2月3日(木)  
10時から12時

平成23年2月5日(土)  
10時から12時

**定員** ★10時から12時★13時から15時  
各コースとも20名  
**参加費** 保険代金 30円

**応募期間** 平成23年1月17日から1月21日  
**お申し込み、お問い合わせ**

今後菅平高原実験センターでは、「ナチュラルリスト養成講座」の拠点施設として、大明神宿舎を活用する構想があるそうです。文化財の中で先進的な考え方を学ぶ新しいものと古いものを両輪とした知の創造の場が生まれそうです。

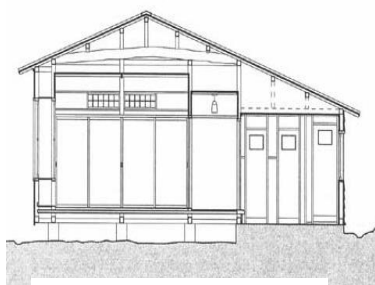


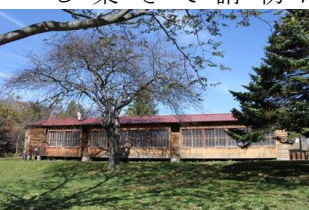
図2 大明神宿舎断面図 (S=1/100)

## ナチュラルリスト養成講座受講生による 大明神宿舎の柿渋塗り作業

どころであった大明神宿舎が新たな学びの場としての第一歩を歩みだした日でした。

(柿渋とは)  
渋柿の青い果実をつぶし、しばらく果汁を発酵・熟成させた赤褐色の液体です。殺菌、防腐作用があり平安時代より塗料や染料、民間薬として用いられてきました。

柿渋塗り作業中のナチュラルリスト受講生



柿渋を塗る前の大明神宿舎

柿渋塗り作業を終えて



柿渋染めなどで、ご存知の方も多いのではないのでしょうか？(池田)

図1図2 製図 梅干野 成央助教

額縁 <http://blog.livedoor.jp/illustrator/?p=42>

電話 0268-74-2002  
ファックス 0268-74-2002  
Eメール

ikimono@sugadaira.tsukuba.ac.jp

後日、詳細をお送りいたします。

(担当・池田)



# 地球の生き物を守り、その恵みを公平に分けるしくみ作り



10月に名古屋で、国連地球生き物会議（生物多様性条約会議COP）が開かれました。私も開催地の名古屋国際会議場に行って、当センター「バイオパイラシー」が、何と現



「中部山岳地域環境変動研究機構」のポスター発表ブース

一関連事業の広報をしつつ、会議にオプザーバーとして参加してきました。この会議の元になっているのは、一九九二年にブラジルのリオ・デ・ジャネイロで開かれた地球サミットです。そこから環境問題の「双子の条約」が調印されました。その一つ、気候変動枠組み条約によって、今では日本でも二酸化炭素を減らすことが「エコ」の代名詞のように言われるようになり

ました。そしてもう一つが、地球の生き物の恵みをいつまでも残そうとする生物多様性条約で、その10回目の会議が今回名古屋で開かれたのです。主な議題の一つ目は、遺伝資源を公平に利用する仕組みについてでした。毎年作られる新薬の60%が生き物由来と言われているように、一見何の役にも立ちそうのない花や虫から、画期的な薬や健康食品が生まれることがあります。それが世界が生物多様性を守る理由の一つです。

## 秋の観察会の「コマ

10月2日(土)に筑波大学菅平高原実験センターにおいて「いまさら聞けない生物多様性って何?秋編」を開催しました。春の一般公開に続いて「草原の多様性・菌類の多様性・大明神の滝までお・さ・ん・ぼ」の3コースを用意いたしました。

その中の「大明神の滝まで、お・さ・ん・ぼコース」からの一コマを佐久間技術補佐員の報告でお伝えします。



視線の先には?

「滝の前で記念撮影をして帰途につき再び草原に戻って今度は、アザミの花におびただしい数のガガンボが、群がっていました。」

他の餌が乏しくなってきたせいでしょうか?近づいても皆黙々と逃げ回す様子も見せず、一心に吸蜜していました。その様子を観察・撮影するために、ガガンボの周りにさらに参加者の皆さんが群がる、という面白い光景が見られました。」



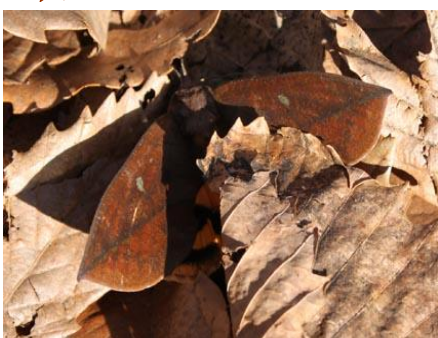
アザミに群がるガガンボが!

(佐久間技術補佐員)

## 探してみよう!

冬も間近なある日の午後、筑波大学

生命科学 研究科大学院博士 後期1年 清水将太 君が見つけてきてくれました。隠れてるアケビコノハを探してね。



## アケビコノハ Adonis vernalis

鱗翅(りんし)目:ガヤチョウのグループ ヤガ科 シタバ亜科 北海道から九州に生息します。 「成虫がみられる時期は5〜11月」

【食草】 アケビ、ミツバアケビ、ムベ、メギなどを食草とします。

ガの一種。翅をたたむと黄色い後翅(こうし)が前翅(ぜんし)の下に隠れ、林内の風景と同化します。(清水将太)

詳しい生態は次号で!

小学館の図鑑NEO・昆虫 小学館・日本産幼虫図鑑 学研・原色日本蛾類図鑑(下) 保育社

されました。そのため、数値目標を盛り込んだ「ポスト二〇一〇年目標」の策定が検討されまいるのは国土の14%で、そのうち森でしたが、これには開発を続けた林伐採などに許可が必要な特別地域い途上国から反対がありまし等は国土のわずか9%なので、目標達成には実効ある保全地を増やすことが必要です。

どちらの議題でも利害をめぐるとが厳しいやとりがあり、合意は無理なのではないかと開催地ではささやかれていました。実際、終了前日になっても議論はまとまりませんでした。この意欲を支える力になったことではから議長国の日本が底力を見せよう。対立から融和を引き出す議長調整してきた議長案を最終日に提示し、会議最終日を過ぎた翌朝3時という土壇場で合意文書の採択に漕ぎ着けたのでしと書けそうです。しかし今回の合意は、まず、遺伝資源の入手には原産国の事前同意が必要なく、や、当時国間の交渉によって利益配分を決めることが盛り込まれた「名古屋議定書」が採択されました。また二〇一〇年まに海域の17%を保全することや品種の維持、開発時に生物多様性を考慮することなどが盛り込まれた「愛知目標」も採択されました。現在、世界の海の保護区面積は1%にも満たないと見積もられているので、これはかなり意欲的な目標です。

## スタッフ紹介



事務係長 榎山 茂樹

私は信州佐久の生まれ

で、高校を卒業してから27年ほど信州から離れておりましたが8年ほど前に信州に舞い戻り、今年4月から菅平高原実験センターにお世話になっております。私は自然が大好きで、休日にはあちこちと車で出かけ、自然を満喫しています。山登りも始め、高山での景色のすばらしさを知りました。信州の自然のすばらしさは格別だと感じています。最近、その美しい自然、風景や草花や動物を写真に残したいと思いカメラ撮影を始めました。まだ初心者ですが、見る人が感動するような写真が撮れたらいいなあと思いつつ、被写体を探し求めている今日この頃です。



次号は3月 発行予定です

本通信の印刷・配布は、東郷堂さんにご協力いただいています。

挿絵 池田まさ子

## 編集後記

第6号は「大明神宿舎」と「COP10」のニュースでいつもと違う紙面での届けとなりましたが如何でしたでしょうか? 「アケビコノハ」は見つかりましたか?



(田中 健太)